

広報 縄文村だより vol.146 (4月号)

# 4 Jomon Times

vol.146

平成30年4月1日  
●編集・発行●  
奥松島縄文村歴史資料館  
東松島市宮戸字里81-18  
TEL 88-3927 FAX 88-3928



## 野蒜・東名運河座談会Ⅱ



2月25日(日)「野蒜・東名運河座談会Ⅱ- 野蒜のたからを活かした観光まちづくり-」を開催。野蒜・東名を中心に100名近くの方が来場し、地元の皆さんの関心の高さがうかがえました。今回の座談会は、観光学がご専門の宮原育子先生(宮城学院女子大学)をお招きし、野蒜地域の観光について考えました。

### 野蒜の「たから」を活かした、これからの観光とは?

これまでの座談会・フォーラムでは、野蒜地区の中心を流れる運河やかつての海の名残のある岩山、広い砂浜とその背後の湿地など「野蒜のたから」を再認識し、これからのまちづくりにどう活かすかを考えてきました。

「野蒜のたからの活かし方」と題した宮原先生の基調講演では、災害を乗り越え、地域の資源を観光に活かす「ジオパーク」について解説。宮城・岩手内陸地震を経験し2015年にジオパークとして認定された栗原市での、地域住民によるガイド、教育への活かし方、観光の受け入れ態勢などの取り組みが紹介されました。

宮原先生は、野蒜地域でも「ジオパークのような」活動が可能であること、「野蒜おたからパーク」として地域住民とともに活動し、野蒜のたからの魅力を内外に発信してはどうかという提言がなされました。

会場からも「夢がもてる内容!わくわくしてきた」「東松島の豊かな自然を活かすにはジオパーク化が必要!」「まずは地域住民が地域のことを知る『野蒜塾』での学びから始めては?」など、前向きな意見が聞かれました。

これからの観光まちづくりについて、また一歩進んだ座談会でした。

## ゴールデンウィークは縄文村へ!!

[縄文体験・体感WEEK!] イベント期間

受付時間

第一弾: 4月28日(土)~30日(月)

10:00~15:00

第二弾: 5月3日(木)~6日(日)



毎年恒例のゴールデンウィーク企画!  
今年は2回にわけて開催します。

火おこしやまがたま作りなどのおなじみの縄文体験のほか、日替わりメニューもご用意!

今年のゴールデンウィークは縄文村であそぼう!



### 4月29日、5月5日は入館&体験無料DAY!

上記の2日間は、どなたも入館&体験無料です。ご家族みなさんと、縄文体験をお楽しみください!

## イベント募集がはじまりました!!

今年度もたくさんのイベントを予定しています。ただいま参加者募集中!

**貝紫染め体験** (かいむらさきぞめ) 5月27日 ¥500  
昔から高貴な色とされた貝紫色。里浜の海に生息している巻貝(イボニシ)から染料を採り、日光の下、古代の染物を体験します。

**縄文の漁り** (すなどり) (釣り針作り) (海釣り) 6月9日・10日 ¥1,500  
里浜貝塚から見つかるシカ角製の釣り針。縄文人のようにシカ角を削って釣り針を作り、奥松島の海で海釣りに挑戦してみよう! (2日間コース)

**縄文の塩作り** (製塩土器作り) (塩作り) 6月24日/9月2日 ¥500  
縄文時代、里浜ムラの特産品として他のムラに運ばれた「塩」。自分で作った製塩土器で海水を煮詰めて、マイソルトを作ります。(全2回コース)

**縄文教室** (縄文土器作り) (野焼き) (縄文料理) 7月22日/8月19日/9月23日  
縄文土器作り、野焼き、そして縄文料理作りと、ひと夏を通して縄文ライフを体験します。(全3回コース)  
大人 ¥1,500 ※  
子ども ¥1,000 ※中学生以上

**バスツアー in 東北** 10月28日 ¥未定  
縄文村を飛び出して、秋の歴史探訪へ。縄文村ならではの視点で、東北各地の面白い遺跡や博物館を巡ります。旬な発掘情報も。今年のお行き先はどこかな…?

**つる編みに挑戦しよう!** 11月中旬予定 ¥500  
縄文人は自然の素材を上手に使って生活していました。史跡公園に自生しているフジやアケビ、クズなどのつるを採集し、カゴを作ってみませんか?(2日間コース)

**そば打ち体験** 1月20日 ¥未定  
縄文時代の遺跡からも花粉や種実が出土する、日本の伝統食「そば」。さとはま史跡公園で育てたそばを使って、おいしいそば打ちに挑戦します。

①ご希望のイベント名 ②参加者全員のお名前  
③ご住所 ④電話番号(FAX番号)をお知らせください。  
電話 0225-88-3927 FAX 0225-88-3928  
メール jomon@city.higashimatsushima.miyagi.jp  
または資料館受付で。

イベントカレンダーは縄文村をはじめ、市内市民センター、図書館等でも配布しています。



## もっと知りタイ! 地域おこし協力隊 (第12回)

■問 地域おこし協力隊事務局 復興政策課地域振興班 ☎内線1233

「たくさんの鳥やブルーインパルスが飛ぶ東松島市の青い空が好き」と語る伊藤さん。「ひがまつうしん」では、取材からサイト運営までを一人でごなします。自由度の高いサイトを目指しており、市内の魅力を発信して市外の人たちの関心を高め、東松島の名を売り込みながら、直接、足を運んでもらえるような仕組みを考えています。

「東松島市は元気な人がいっぱい。私は橋渡し役として市内の魅力を幅広く伝え、交流人口を増やして地域経済が潤うようにしていきたいです」と先を見据えています。

仙台市出身の伊藤さんは昨年11月から宮戸地区に住み、(有)おはしコーポレーションでインターネットを活用したサイトの企画、制作を行っています。春には、情報サイトの東松島市通信こと「ひがまつうしん」を立ち上げ、市内の観光名所や地域産業、食文化などを発信していきます。

東日本大震災が発生したとき、伊藤さんは受験で関西にいたため、直接的な被害は受けませんでした。「当時、何もできなかったことが悔しくて」と心残りが残り、大学卒業後、興味と関心があった東松島市の地域おこし協力隊に参加しました。

### 伊藤 克哉さん(26)

WEBプランナー



### 「ひがまつうしん」で情報発信